



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

稲城雲母保育園



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

テーマ【 昆虫 】

設定した理由・背景

自然の多い環境が多く、昆虫が多く見られる立地である中、子どもたちは昆虫採集を日々楽しんでいる。子どもから「虫ってどんな種類があるの?」や「セミはいついるの?」という疑問があがった。昆虫の種類や生体、それにまつわる自然物などへの興味関心を深めるため探究活動を行おうと考えた。

用意した環境設定

- ・虫網、虫かご、虫眼鏡、水槽、図鑑、タブレット端末、色鉛筆、絵具、クレヨン、模造紙、カメラ、折り紙
- ・様々な公園に行き、様々な昆虫を探し、採取した。水槽などを用意し、飼育活動を行った。図鑑などを手に取りやすい位置に配置し、いつでも調べることができるようにした。

活動のあゆみ

【開始】

- 4/14 昆虫って何?どこにいるの?という問いを投げかけ昆虫への探究活動がスタートする。
- 4月春の昆虫採集
- 5月オタマジャクシの住処は?(池にオタマジャクシ探しに出掛ける)
- 6月虫の足は何本?(昆虫を捕まえ、それぞれ足の本数が何本か調べる)
オタマジャクシはカエルになったのか?(池にオタマジャクシの変化を調べに出掛ける)
- 7月昆虫の切り絵にチャレンジ(観察した昆虫の特徴を捉える為、切り絵製作)
- 8月夏の虫は?(夏の昆虫探し)
セミの鳴き声は種類によって違う?(タブレットにて、セミの鳴き声比べ)
- 9月オタマジャクシはなぜカエルにならなかった?(飼育したオタマジャクシの振り返り)
- 10月秋の昆虫採集(秋の昆虫探し)
バッタの色は変わる?(バッタが擬態をするか観察)
- 11月虫眼鏡で昆虫を詳しく見てみよう(虫の細部についての観察)
- 12月冬の昆虫採集(冬の昆虫探し)
冬に虫がいないのはなぜ?(なぜ冬に虫がいないか、話し合い)
- 1月寒い中、どこに虫がいるかな?(前回の話し合いの基、どこに虫がいるか探す)
- 2月季節の虫の振り返り(どんな虫が、どこにいたかなど振り返り)

探究活動の実績

昆虫をテーマに決めた後、「昆虫はどこにいるの?捕まえて観察してみよう」という問いを投げかけた。子ども同士昆虫採取を行う中で、「昆虫は、木の上だよ」や「土の中にもいるかも」など対話をしながら探す姿が多く見られた。子どもたちの中から、「虫かごに入れて連れて帰ろう」という声が上がった。しかし、虫かごに入れて連れて帰ったが翌日には弱ってしまっていた。その中で、保育者は「どうしたら昆虫は元気に過ごせると思う?」「食べ物は何かな?」と投げかける。子どもたちの中で、「自然環境」と「虫かごの環境」の違いへの気付きが見られた。そこで、子ども同士話をして「葉っぱを入れてみよう」「食べ物を入れてみよう」と相談する姿がある。その様子を見た保育者が、「どうしたら、虫さんたちは幸せだと思う?」と投げかける。子どもたちと一緒に図鑑やタブレットを用いて、昆虫の生態について学びを深める。調べる中で、「甘いものが好きな虫がいるよ」「生きた虫を食べるんだって」などと言う声が上がると、「調理室に蜂蜜をもらいにいこう」と提案する子どもがいる。また、虫の特徴を捉える切り絵を行う中で、「虫の足は何本だろう?」と尋ねる。子ども同士、虫を捕まえる担当、数える担当など役割を分けながら、取り組む姿がある。昆虫採取を行う中で、興味の幅は広がり「土手と山では、虫は違うの?」という環境の違いで昆虫の生息に違いはあるか疑問を持つ子どもが見られた。保育者は、子どもの意見を聞きながら、散歩先を変え昆虫観察などを続ける。夏場の暑い時に、登園した子どもが「セミの鳴き声には種類があると」と友だちに伝える姿が見られたので、保育者は「じゃあ、それぞれの鳴き声を聞いてみる?」と投げかけ、タブレット端末を用いてセミの鳴き声比べを行う。秋には、保育者と一緒に昆虫について調べていた子どもが「擬態ってなに?」と疑問を持つ。保育者が簡単に意味を伝えると、子どもから子どもに説明を行い、次の散歩の際にバッタを捕まえ、葉っぱを入れ擬態をするかの観察を行った。冬に昆虫採集に行くと、昆虫が見つからない。園に戻り会議を行うこととなった。「寒いから?」「食べ物がないから?」など様々な疑問が出てきた。子どもたちの中で、「食べるものがあって、温かいところが過ごしやすい」という結論に至った。

今回の探究活動を行う中で、子ども同士が共通の話題を持ち、自発的に話し合いを進め「どのように昆虫を飼育するか」「どこに昆虫がいるか」などといった話をする機会が多く見られた。子どもどうしてやり取りを行う中で、より深い疑問を持つ姿が見られ、保育者も一緒に調べ子どもたちの疑問に答える姿が多く見られている。また、保護者の中でも活動に理解を深め子どもと一緒に昆虫を探し、調べるなど協力をしてくれる方がいた。子どもたちは、ただ昆虫を採集するという活動から、昆虫について知り、さらには昆虫がよりよく生きるための学びへと繋げることができた。また、それを子どもたち自身で話し合いながら、どうしていくか考える姿が多く見られるようになった。



まとめ

活動前は、「昆虫はカッコいい」「昆虫が好き」という程度の認識が始まったが、活動を進めるにあたって、「昆虫の足の本数、口の形」など昆虫の作りにも興味を深める姿がある。年間を通して活動を行う中で、季節の変化によって昆虫の種類が変わっていくことも知ることができた。昆虫自体に興味を持つ以外にも、飼育環境への探究を深める姿が多く見られた。今回の探究活動を通して、子どもたちが昆虫の気持ちを考え、「よりよく過ごせるようにしよう」と考えたことは、昆虫を探究する中でいい気付きであったと感じる。昆虫を通して、思いやりの気持ちを育むことが出来たことはいい成果であった。今年度は、飼育が上手くいかず「なんで生きられなかったんだろう?」という問いに基づき、「次はこうしたらいいのでは?」などという案が出たものの、実践する機会が無かったので、次年度に引き継ぐようにする。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

稲城雲母保育園



テーマ【 植物 】

設定した理由・背景

自然の多い環境の為、普段から子どもたちが植物を持ち帰る姿があった。持ち帰ったものを、「この花なんの花？」と尋ねたり、「他の場所には、どんな植物がある？」などといった半面、その植物は、持ち帰るのみで満足する姿があるので、探究活動に繋げ、学びを深めることが出来るようにと考え、テーマの設定に至った。

用意した環境設定

- ・タブレット端末、色鉛筆、絵具、クレヨン、模造紙、カメラ、折り紙、奥多摩への自然観察活動、ラミネーター
- ・様々な公園に行き、様々な種類の植物に触れたり、採取をしたりし、植物の観察を行う。

活動のあゆみ

【開始】

4月身近な植物には何がある？の問いからスタートをする。

- 4月植物探索
- 5月すいかの栽培を始める。
- 6月すいかの生長観察。
- 7月奥多摩自然観察活動事前学習
- 8月奥多摩自然観察活動
奥多摩自然観察活動事後学習
すいか収穫、試食
- 10月奥多摩の植物でしおり作り
- 11月秋の自然探索
- 1月冬の自然探索
- 2月春に向けた変化の観察

✿探究活動の実績✿

子どもたちより、散歩中や散歩後に「この花、何の花？」と尋ねる姿がある。子どもと一緒に持ち帰った植物を調べるなどして、子どもたちの興味を深めようと考えた。まずは、自分の住む地域の植物を知るため、「身近な植物には何があるの？」という問いを投げかけた。公園や、山に出掛け植物の観察と並行して、スイカのような実を見つける子どももいた。そこから、「スイカの栽培をしたい」という声が見られた為、スイカの栽培が始まった。すいかの栽培を行う中で、「どうやって、スイカができるかな？」と期待を持てるような声掛けを行うようにした。子どもの中でも、「スイカ、ここから出るかな？」「こっちの花のところじゃない？」とのやり取りが見られた。収穫した、スイカはスイカ割をして食べた。「いつも食べているスイカと味が違う」「いつもより小さい」という声が聞かれる。「どうして大きくならなかったのかな？」という問いに、子どもたちなりに考え、「水が足りなかった」「栄養が足りなかった」などという姿が見られた。

並行し、身近な植物と山の植物を比べるために、奥多摩自然観察活動を計画し事前学習を始める。「みんなが住む街の植物と、奥多摩の植物は違うかな？」「保育園と山の空気は違うかな？」という問いを投げかける。事前学習を進める中で、「奥多摩ってどんなところだろう？」という疑問があり、タブレット端末を使用するなどして、奥多摩について知る機会を設ける。「川にも植物があるかな？」「カニははっぱ食べるのかな？」「珍しいお花もあるかな？」と子ども同士、疑問を投げかけ合う姿が見られる。自然観察活動当日には、山のハイキングや川遊びを通して、「自分の街より、葉っぱの緑色が濃いね」「はっぱの匂いがいっぱいするね」など違いを全身で味わう声も聞かれた。

上記の活動を通して、子どもたちの自然物への着眼点が変わった。散歩の際には「どのように植物が生えるのか？」「どのような形状をしているのか？」「どうやって変化していくのか？」など、着目する姿が多くなった。保育者はその都度、タブレット端末などを用いて、植物の生え方、違う季節の姿などを一緒に調べるようにした。探究活動当初の、「植物の名前を知りたい」「ただ持ち帰る」という姿から、より深く自然物について知ろうとする姿が見られるようになり、子どもたちの成長が感じられた。

すいかを植え、収穫、食べるまでの様子。

身近な植物、奥多摩の植物を比べる様子。

季節による、植物の変化に気付く様子。

すいかが出来た！

いただきます。

これは、稲城にはないね！

植物を用いた製作活動の様子。

葉っぱが全部なくなってる！

まとめ

活動前は、植物を持ち帰るだけであったが、植物への探究を進めるにあたり、植物への興味が深まった。植物の名称を知ろうとする姿があったり、自然観察活動の経験を活かし、自分の住む街と比べようとする姿が増えた。実際、奥多摩まで出掛け、ハイキングを行う中で、空気感の違いや植物の色の違いを体感できたのは大変有意義であり、探究活動の意欲を高めることに繋がった。子ども自身が、考えたことを経験することは大切であることを改めて感じた。栽培活動では、実際すいかが生長して食べられるようになるまでの課程を知ることが出来た。今回、すいかの栽培を行う中で、思うようなサイズに育たず、疑問を持つ姿があった。そのような姿と一緒に、考えるようにしたが、子どもたちにとってスーパーで売っているものが良く知るスタンダードであることを感じた。スーパーで売っているものがスタンダードではなく、それを作っている人もいることも伝えていく必要があると感じた。季節の変化に関する関心も高まったので、今後も引き続き興味を持って植物に触れることができるように、働きかけを行っていくことができるようにする。来年度以降、保護者も巻き込み、各家庭の外出時に植物の採取を行ってもらおうといった活動も行う中で、さらに探究活動を深めることができるようにする。